Full Value

失敗しない経理DX

選ぶべきベンダーのポイント

はじめに

ここ数年、企業は会社運営においてあらゆる業務のデジタル化・リモート化が求められるようになりました。
特に経理・会計部門においては、「効率化」や「自動化」を目的としてデジタル技術を活用するケースが多いです。
その理由として、直接利益を生み出さない間接部門をスリム化し、事業活動の根幹となるコア業務に人材と資金を集中させることが企業の競争力の強化につながると考えられているからです。
実際、経理部門はルーティンワークが多いため、自動化との相性がよいとされています。
また、紙を使ったアナログ作業が中心の現場も多いため、デジタル化した際、経営に大きなインパクトを与えるため多くの企業で導入が進んでいます。

しかし現状、“日々の業務に追われ経理DXに本格的に取り組む余裕がない”

“会計事務所や税理士事務所に聞いても自動化ツールやDXのシステムに詳しくない”など、

社内で経理DXを進めるために**「どんなシステムを使えばいいか?」**　**「どんなベンダーに相談すればいいか?」**
というところでハードルを感じられることも多いのではないでしょうか。

本誌では、経理DXを導入するにあたってパートナーにすべきベンダーの選び方や導入するシステム選びで注目すべきポイントについてご紹介します。

アジェンダ

01 経理業務のDX化によって起こること

02 ベンダーの提供しているシステムの範囲

03 誰もが使いやすい管理画面

04 クラウドのメリットを活かせるシステム

05 まとめ

AIの力で企業価値を最大化する。

Full Value

Full Value

DX化によって、以下のようなメリットが期待できます

01 業務効率化

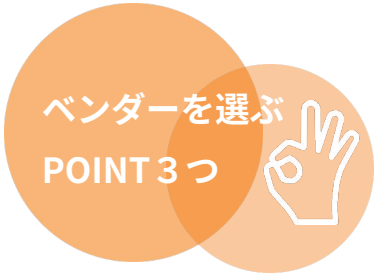
書類の記載内容の仕分け、取引先への書類送付といった業務がシステム上で自動化されるため、業務負荷を大きく減らすことができます。
種類や処理工程の異なる書類を一定のルールのもと自動で処理し、決算まで一貫して行うことができるため、属人化や人的なミスを防止できます。

02 コア業務の強化

経理には煩雑な作業が多いため、優秀かつ貴重な人材が経理の定型作業に割かれてしまうケースも少なくありません。数字や分析力が高い優秀な経理人材をコア業務に集中させることで、企業の業績アップや企業価値の向上に期待ができるでしょう。自社リソースの効果的な活用と継続的な事業の安定にも期待できます。

03 経営判断と改善アクションの迅速化

管理会計の基盤を構築し、より適切な経営判断を実現します。加えて経理のデジタル化で、定量的な情報として経営状況や業務プロセスの改善点が可視化されます。
リアルタイムで状況を確認出来るため、改善アクションを迅速に行うことが出来ます。



- システムの範囲の網羅性
- 使いやすい管理画面
- クラウドとの親和性

Full Value

経理に関するシステムはすでに多くの企業が提供しています

請求書特化型や
給与計算特化型など
限定的な機能のもの

経理業務全般から
人事労務関連まで
一貫してできるもの

一部の業務に特化したシステム

- 😊 細かい機能がついて便利
- ☹ 経理業務を一貫してすることができない

経理業務全体で複数のツールを使い分ける必要が生じます。	
複数の異なるシステム間では	**使用するシステムの種類が増えると**
データの移行や連携・転記、他部署への引継ぎ作業で人の手が必要になる	経理以外の部署のメンバー対してシステムごとに異なるオペレーションが発生
結果的に全体の作業効率が上がらない	**混乱を招くこともデメリットとえいえる**

業務全般を幅広くカバーするシステムであれば、

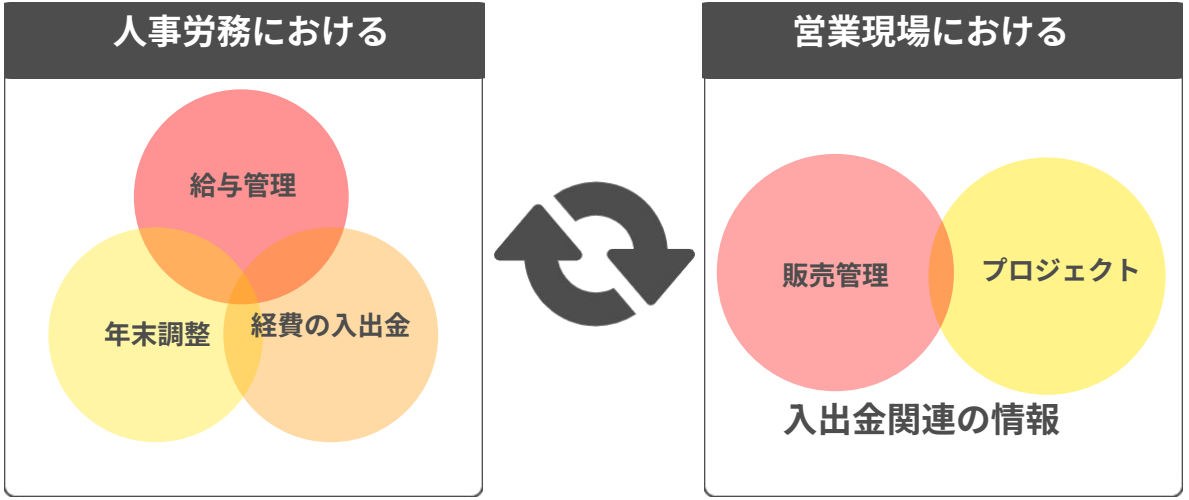
システムの導入後に拡張が必要な場合も

業務効率を下げることなく

スムーズに連携させることができます。

Full Value

経理会計の各業務間でシステムの連携が取れていれば、データの移行や転記、確認の工数を大きく削減できます



連携がスムーズになることで、社内のデータを素早く同期・処理することが可能

それらのデータは財務まで紐づけることができ、
集まったデータをもとに財務諸表の作成や自社の経営状況を可視化させることができます。

Full Value

PCとスマートフォン両方の使用感も確認したほうがよい

PCとスマートフォンでは画面の大きさが異なるため、どのようなシステムでも管理画面の構成や使用感に差が生じます。
使用者がどのような環境で管理画面に触れるのかを想定しながらベンダーを選ぶと良いでしょう。

使用者が出社、社内に在席している時間が長い

まとまった作業時間の確保が可能

出張の予定が一定しており余裕をもって
申請することができる環境

PCの使いやすさを優先

経営層や申請者の外出が多く隙間時間でデータの確認や事務作業をする必要がある

急ぎの申請や承認作業が発生し、すぐに対応しなければならないといったケースが多い

**どこにいても操作可能なスマートフォンを
使用することが多くなります。**

スマートフォンの使いやすさを優先

Full Value

経理業務をDXすると、社内の業務オペレーションが大きく変わります

そのため現場社員や経営層との連携が必須であり、どのようなポジションの人にもわかりやすく使いやすいシステムが求められます。管理画面のインターフェースはデモや無料版の利用を通して、必ず確認するようにしましょう。

使いやすいUI（ユーザーインターフェース）とは

直感的に理解できる

「このボタンを押すと何ができるか」「入力項目はどこか」と、操作方法が誰でも直感的に理解できる表示が良いといえます。

「よく行う業務」がすぐに選べる

現場社員であれば経費精算や請求書発行、経営層ならデータの一覧化や分析など、それぞれが高頻度で使用するメニューが優先的に表示され、より少ないクリックで操作できるとストレスなく作業ができます。

入力補助機能や自動入力機能がある

経費の項目や取引先名など、手入力が面倒なものをリストから選択できると非常に便利です。また各取引に対して事前にルールを設定し、入力や仕分を自動化できる機能は、作業効率を大きく上げてくれます。

Full Value

経理DXの大きなメリットとして、経理業務のクラウド化により あらゆる場所で業務が可能になることが挙げられます

オンプレ型システム

- ▲ 特定のPCでしか業務を行えず出社は必須
- ▲ 社外へのデータの共有の際、データを一度USBに移して送るなどの対応が必要

クラウド型システム

- ● 社員は社内外どこからでも、どの端末でもアクセス可能
- ● 会計事務所や税理士事務所にアカウントを付与してデータを共有可能
- ● 銀行口座の入出金やクレジットカードの利用履歴と会計ソフトを自動的に連携可能

Full Value

クラウド型のシステム費用は、月額料金、初期費用、1アカウントごとの使用料が一般的な内訳です
使用人数をあらかじめ想定したうえでコストを比較検討するとよいでしょう

経理業務でよく利用されている
クラウド会計システムの比較

	Freee会計 スタンダード	MoneyForward ビジネス	ジョブカン会計
利用料金	8,980円/月(年払い時) 11,980円/月(月払い時)	4,980円/月(年払い時) 5,980円/月(月払い時)	5,000円/月
初期費用	0円(無料お試し期間あり)		
アカウント追加毎の 1名あたりの料金	4人目以降 300円/月(年払い時) 400円/月(月払い時)	4人目以降 300円/月	5人目以降 400円/月

システム選定時の注意点

複数人での使用を想定している場合には料金形態に注意が必要です。

システムによってはアカウントの発行可能数が少ない、アカウント追加の費用が高額である場合があります。

Full Value

経理DXのシステムやベンダーを選定する際に重要なポイント

01 / システムの範囲の網羅性

経理業務や関係部署は多岐にわたります。人事労務など、部署をまたがる複数の業務でも連携できる網羅的なシステムを持ったベンダーであれば、効率よくDXを進めることができます。

02 / シンプルで使いやすい

経理DXの導入は、経理担当者だけでなく経営層や現場社員のオペレーションも大きく変化します。あらゆるポジションの人にとって使いやすいシステムであることが重要です。

03 / クラウドとの親和性

社内外あらゆる場所からアクセスできるクラウド型のシステムは、申請者や経理担当者、経営層など使用者が複数になるほど利便性は増します。複数人の使用者を想定している場合には、アカウントの追加費用が安価なものを選ぶと全体のコストを抑えることができます。

これらのポイントをおさえたベンダーがパートナーになれば
経理業務のDX化をスムーズに進めることができます

最後までご覧頂きありがとうございました。
当資料がみなさまの何かキッカケやお役に立てたなら幸いです。
フルバリューではAIツールが貴社の現場で真の力を発揮するまで
伴走し二人三脚で成功に導きます。
お気軽にお問い合わせください。

今後ともよろしくお願いいたします。